

# 2022 年度入試結果総評

## —佐賀県—

今年度の佐賀県公立一般選抜入試では、全体の倍率が 1.04 倍であるものの、例年通り人気校に生徒が多く集まる試験になりました。令和 4 年度の倍率は、佐賀西高校が 1.17 倍、致遠館高校（理数科）が 1.33 倍、致遠館高校（普通科）が 1.53 倍、佐賀北高校（普通科）が 1.36 倍、小城高校が 1.09 倍でした。

入試問題の難易度に関しては、ほとんどの科目で難易度が上がっています。各科目の平均点を昨年と比較すると、国語は 32.8 点→25.3 点、数学は 25.7 点→22.6 点、社会は 30.4 点→25.7 点、理科は 26.4 点→27.9 点、英語は 28.3 点→22.6 点と 5 教科中 4 教科で大きく平均点が下がりました。英語では、リスニングの問題が記号で答える問題から記述で答える問題に変わりました。また、長文問題の文章量が 24 行から 32 行へと増加し、長文の記述で答える問題も増加しています。国語の作文では、資料読み取り型が定着していますが、今年は広報紙の紙面として写真が用いられました。社会は、資料を読み取る問題が増加し、選択肢の文章が長くなったため、読解力が必要になっています。数学・理科は、例年通り、各学年の内容・単元から、基本的な内容をはじめ応用力を必要とするものまで幅広く出題されていますが、数学は正答率が 10% 以下の問題が 7 題と、例年よりも多めに出题されました。また、受験者全員に対して行われる面接は例年どおりのグループ面接で、質問内容は「志望動機」や「高校生になってからの自己の展望」など、オーソドックスなものだったようです。

佐賀県の公立入試は、科目によっては傾向や難易度の変化が著しいので、単に過去の問題を解くだけでは十分な対策をしたことにはなりません。幅広くいろいろなタイプの問題を練習する必要があります。出題傾向や対策については、英進館自慢の、ベテラン教師陣にご相談いただきたいと思います。英進館では、佐賀県公立高校入試の出題傾向を研究し尽くし、予想模試を繰り返し生徒に解かせることで確実に合格力をつけてきました。入試本番では、1 点が重要となるので、日々実践力をつけ、1 点にこだわる答案づくりを目指しましょう。英進館では、鍛え上げられた館生と何度もテストで競争することにより、テストの受け方・正しい復習のやり方・合格ラインに対する正しい見方などが分かります。また、中 3 になってから行われる SAGA テストなど、学校での共通テストの成績なども考慮に入れて、正確な受験指導を行います。令和 5 年度も、お子様の第一志望校合格を目指して尽力してまいります。

### <令和 4 年度佐賀県立高等学校入試 得点状況> (各 50 点、250 点満点)

	国語	社会	数学	理科	英語
受験者平均点	25.3 点	25.7 点	22.6 点	27.9 点	22.6 点
標準偏差	7.6	9.5	9.2	8.4	10.7

### <令和 4 年度佐賀県立高等学校入試 大問別正答率>

	国語	社会	数学	理科	英語
1	62%	47%	77%	63%	53%
2	36%	53%	38%	51%	27%
3	54%	52%	51%	62%	62%
4	51%	58%	34%	52%	40%
5		57%	26%	51%	45%
6		55%			